

【宮崎県納税貯蓄組合連合会会長賞】

子どもたちの未来のために

宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校

三年 橋口 紗英

私の知り合いに、特別支援学級に通っている子がいる。彼は発達障がいを持っており、学校での学習に支援が必要なのだ。彼の存在を通じて、特別支援学級と税の関係について考えることがあった。

特別支援学級は、学校において発達や学習に困難を抱える生徒たちが、適切な支援を受けながら学ぶためのクラスだ。これには、専任の教師や臨時の支援員、さらには専門のカウンセラーやセラピストなどが関わっているそうだ。彼らは、生徒たちが個別に必要とする支援を提供し、学びの障壁を取り除くために尽力しているのだ。彼が小学校に入学して以来初めて会った時、彼は学校が楽しいと伝えてくれた。私は勝手に、学校が辛くなるのではないかと心配していたが、それがただの杞憂と分かって安心した。そして、それが税金のおかげであると知り、初めて税金のありがたさを実感した。

小学校の授業で税金について調べていく中で、自分の生活にも大きく関わっていることを知った。例えば、公園で好きなだけ遊具で遊べるのも、図書館に行ったら好きな本をたくさん読めるのも、全て税金があるからこそ可能なのだ。

税金は、国民が公共の福祉や社会的なニーズを満たすために納めるお金だ。税金を納めることで、私たちは特別支援学級の友達や彼らの家族を支援し、彼らが適切な教育を受ける機会を提供することができる。税金を通じて特別支援学級が運営されることで、私たちの社会はより包括的で公平なものとなるのだ。税金を納めることで、お金を払わずとも、好奇心旺盛であり、成長期真っ只中の子どもたちが充実した日々を過ごせるのだ。

今を生きる子どもたちはこれからの日本の未来を担う。特別支援学級に通う子だけでなく、難病と戦う子やヤングケアラーの子など、子どもにも与えられている人生はそれぞれ違う。だが、全ての子に共通することが一つある。それは、子どもはみんな税金によって支えられているということだ。義務教育があり、医療費助成があり、福祉サービスもある。それは、子どもたちが「自分は一人ではない。自分を支えてくれる人たちがいる」と考える一つの方法になると願う。

税金の重要性を認識し、社会貢献の意識を持ちながら、特別支援学級の友達と共に成長していきたいと思う。